市民登場

No.735

陶芸家

富田 美樹子さん

◆とみたみきこ　京都市立芸術大学工芸科陶磁器専攻卒業。東京国立近代美術館工芸館や岐阜県美術館での展示のほか、アメリカや香港など海外でも作品を発表。村野本町在住。49歳。

作品を紋様で埋め尽くす絵付けスタイルは愛好家から「超装飾」と評される。海外で目にした宝飾品や教会装飾のほかに昆虫やキノコなどの図鑑を見ては自然界の奇抜な色や形に刺激を受け、次々とアイデアが浮かぶ。印象的な作品の数々は成型から焼き上げ、絵付けに至るまで時間を要すため「一生かけて創りきれるかしら」と苦笑いする。

立体芸術に興味を持ち、大学では陶磁器を専攻した。卒業後、美術教員になるも退路を断ち、20代半ばで市内に工房を構えて作品づくりに没頭する。「土を活かすことより自由な発想を大切にしてきました」。平成21年、東京国立近代美術館工芸館の企画展「現代工芸への視点　装飾の力」に招かれ出展。その斬新な作風にギャラリーや美術館から次々と依頼が舞い込み始めた30代半ばに父親ががんに。母親の介護と幼い娘たちの育児も重なった。「苦しくても諦めず地道に創り続けたことが今につながっています」。平成29年にギャラリーからの依頼で念願の70センチ超えの大作**（写真）**に１年かけて取り組み、昨年アメリカでの展示で買い手がついた。「強い生命力を感じると評価されました。国内外での展示をきっかけに多くの人と出会いが生まれる。工房にこもりがちとなる私が外の世界とつながれる嬉しい瞬間ですね」。

２年前からは陶芸教室の生徒の声を受け、地元でも発表の場を得ようと枚方工芸会に所属。ガラスや彫金など他分野の作家と情報交換しながら土以外の素材を組み合わせた作品に挑戦中だ。「陶芸の新たな領域を目指したい。これからも創作に妥協なしです」。

ひらふぁと No.66

「青空と夏の輝き」

今月号の表紙写真は、山之上北町在住の大塚博さん（47歳）が令和元年10月に穂谷で撮影。「この日は天気も良く、花の色がきれいに見えて気分も晴れました。青空の下、元気に咲いてる感じが伝わればと思い撮影しました」。

枚方の魅力を再発見できる風景写真を大募集。街中もOK。▶応募　電子メールに住所・氏名（ペンネーム希望の場合はペンネームも）・年齢・電話番号・電子メールアドレス、写真の説明を書いて写真データを添付し広報プロモーション課（✉kouhou@city.hirakata.osaka.jp）へ。

※応募作品は市公式のフェイスブックやインスタグラムで公開します。